

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>地域との関わりを重視し、住み慣れた地域で安心した生活が送れるような理念を、職員全員で考え、玄関、フロア、廊下に掲げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>毎日の朝礼時に法人の理念、事業所独自の理念を唱和し、実践が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>家族に対しては、家族会や面会時などに説明を行っており、地域に向けては主に運営推進会議の中で話しを重ね、少しずつ理解を得ているが住民への浸透はまだ薄い。</p>	○	地域に向けての発行紙などを定期的に発行し呼びかける。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>散歩や買い出しで外出した時は気軽に挨拶を交わしたり、グループホームの住人であることを理解して下さった上で、声をかけていただくことが日常化している。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>今年は初めての地域活動に(いざらいい)参加することができた。地域の方々との関わりを積極的に持つことができるよう、取り組んでいる。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所による地域の高齢者に対する取り組みは、具体的な話し合い、実践に至っておらず今後の課題である。	○	運営推進会議を通じて地域の方の要望や意見をうかがい、事業所としてどのように貢献していけるか検討していく。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価することでサービスの見直し、質の向上に向けた取り組みをしている。外部評価の結果での課題は改善計画シートを立て具体案の検討を行い実践につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度定期的を開催しており、サービスに反映できるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外はあまり行き来がない。互いの情報交換を行うなどサービス向上に向けた取り組みをしていく必要がある。	○	市主催の研修や活動内容を聞き、互いに行き来できる関係を築いていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所独自で権利擁護事業、成年後見制度について、市から講師を招き勉強会を開催し知識向上に努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会が中心となり、虐待を正しく理解し入居者の権利が守れるよう、職員は日々取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明や重度化に向けての指針などを詳しく説明している。また、入居者、家族の不安や疑問にも十分な時間をかけ対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者一人ひとりの気づいたことを毎日のケース記録に記入し、職員全員が統一したケアができるよう取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの担当者が、日常の様子や健康状態などを毎月2回電話で伝えている。また、月末には状況報告を記入したお便りや金銭出納簿を郵送して確認していただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時には担当職員が状況報告をした際に意見を聞くような働きかけをしており、職員全員が家族の意見に耳を傾け反映していく体制づくりができています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のチームワーク会議で問題点や改善策を具体的に話し合うなど、ホームの運営やサービス内容に職員の声はいかされるが、運営者に意見や要望を発信する機会はない。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の要望に対応するには職員数が十分でなく、職員側の都合で見合わせたり待っていただくことがある。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族や利用者が不安や不満を感じないように、その都度家族会やお便りで説明している。家族の方は特に異動に関しては敏感であるので、スムーズに移行ができるようしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症勉強会を継続して開催する。また、法人外の研修にも個々の実績に応じて働きながらスキルアップできるように勧めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>7月にグループホーム協議会主催の研修発表に参加し、地域交流の取り組みについて発表した。また、他のグループホームの意見や経験を聞く機会もあり、事業所のケアに生かしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>同じ職場で働く職員として職場内のストレスや悩みの対応、全体像の把握と調節を行い働きやすい環境づくりに努めていく必要がある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の努力や実績に応じて、研修参加や資格取得に向けて勤務調整しながら勧めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には本人との面談を重ね、不安や困っている問題と向き合い、一緒に解決の糸口を探しその人なりの理解に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学や入居調査時には納得し、入居していただけるよう説明を行っている。現状で困っていること、家族の意見を入居後のケアに反映されるようしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる支援や、グループホームで生活する上で必要な問題点を明確にし、優先順位を定め柔軟な対応ができています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には見学や相談事業を随時行っており、グループホームの雰囲気に少しずつ慣れていただいている。特にサービス開始時は本人や家族との協議を含め、状況を勘案しながらゆっくと勧められている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩としてこれまでの経験を生かし、料理、裁縫、農作業などの教を請うたり、経歴や家族の話などコミュニケーションを重ねる中で、共感したり互いを認めあっている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や状況報告を行い情報を共有したり、ケアに関して相談することで一緒に問題に取り組んでいる。職員と家族が本人の生活を支援していけるよう、協力関係が維持できるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会や行事の支援、情報を共有することで本人、家族とのつながりが保たれている。また、入居前の関係も理解し、よりよい関係が築けるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで関係があった方との交流が図れるよう支援したり、家族の協力で馴染みの美容院や外食をしている方もおられる。また、個別外出で思い出の場所やお店に行けるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士が声を掛け合い、自主的に役割を持ってきている。できない人には生活の中での出番や役割分担ができるよう対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後の協力病院へのお見舞いや支援相談、他のサービス利用やその手続きの支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の思い込みの視点にならないよう、常に本人本位の視点に立って支援できるよう、カンファレンスを行ったり家族の意向をうかがっている。また、本人がどうしたいかを重要視して、その人らしい暮らしができるよう努めている。	○	家族の協力も必要であるが、理解していただけない家族も中にはおられるので、十分に説明していく必要がある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査時には生活歴やバックグラウンドに関する情報を聞き取り、これまでの暮らしを把握することでケアに反映している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、少しの変化を見極めケースに記録し申し送り時、気づきなど細かい部分を申し送れるよう気を付けてその申し送りを通じて心身の状態等の把握に努め本人の現状を総合的に感じ取れるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族との日頃の関わりの中で思いや意見を汲み込み、介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに評価している。また、変化に応じて見直しが必要な場合は速やかにカンファレンスを行い、現状に合った計画の見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて記録ができており、日々の生活の中で気づきに注目し、その人らしさが分かるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、必要な支援について何ができるか考えながら取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアには地域交流として定期的に行事などに参加してもらっており、近隣住民参加の防火訓練も行った。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	過去にも他のサービスを利用したことがなく、介護保険以外のサービスの連携は不十分である。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーである包括支援センターの職員と、必要に応じて会議などを利用しながら協働していくことが望まれる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、受診も家族に同行をお願いしている。	○	契約時には受診同行の同意を得ているが、全く協力していただけない家族もおられるので、必要性を説明していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ専門医の受診の支援をしており、困難な事例が発生した場合は職員が同行し、指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に看護師は配置されていないので、健康管理や状況変化に応じた対応ができるよう職員の力量が必要である。	○	併設施設の看護師に勉強会を依頼してレベルアップを図りたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関に対し本人に関する情報を提供し、職員もお見舞いに行ったり担当医師や看護師に聴き取り記録している。状態によっては、家族と相談して今後の計画を立てている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に関わる指針の説明を行い、同意の署名・捺印をいただいている。また、その時々に応じ家族に確認をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間対応可能な病院を希望している人ばかりでないので、医師との連携は難しくはっきりした事業所の見極めが必要である。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の環境変化によるダメージが最小限になるように、関係機関にはできる限りの情報提供を心掛けている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの人格、誇りを尊重した関わりを持ち、日々支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の表情や行動からも勘案して希望や自己決定できるよう、職員はそばに寄り添いながら傾聴できるような取り組みをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態を把握して、今日はどうしたいかなどを会話の中からさりげなくキャッチして入居者のペースに合わせた対応を心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個別に希望する化粧水、シャンプー、石鹸などは買い出し時にご自分で選んだり、購入を頼まれる。理容、美容は行きつけの店で定期的に通えるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は季節やリクエストに応じている。食材は入居者と毎日行きつけのスーパーへ買い出しに行き、調理や片づけも一人ひとりのできることを見つけ、全員が関わられるよう取り組んでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ビールを毎日飲まれる方や、個々の嗜好品を提供できるよう家族に協力していただいたり、個別外出を計画して楽しめるようしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態に応じて尿取りパットやリハビリパンツ、失禁パンツなどを使い分け、排泄のパターンを把握して細やかな声掛けを行うようしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日決まった時間に入浴される方や、仲の良い方同士で一緒に入る方など、一人ひとりの気持ちや習慣を大切に支援を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調などを配慮しながら個々に合わせた休息や安眠を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できることや得意分野で力を発揮してもらえるような声掛けを常に心掛け、個々に合った楽しみや役割を職員と一緒に言い、感謝の気持ちも伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に応じお金を所持したり、使えるよう毎日の買い出し時には暮らしの中での支援ができています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れている日には周辺の散歩や毎日の買い出し、また、一人ひとりの希望に応じた個別外出を楽しめるようにしている。事業所専用車がないこと、人数不足のために思うようにできないのが現状である。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出や家族の方々と一緒に行く日帰り旅行、本人の行きたい場所の希望があれば、個別外出などを実現に向けて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は自室でゆっくり話せるよう子機を使用している。また、希望があればいつでも使用できるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月の家族会や訪問時には笑顔でお迎えして、ゆっくり過ごせるようお茶などをお出して日頃の生活の様子をお話させていただいている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止についての話し合いを持ち、職員が理解し拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の安全を追求しながら、自由な暮らしを支える取り組みを職員が理解し、いつでも気軽に出入りできるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪問時は必ず声掛けして入っているし、フロアにいる時も一言お断りをして入るよう心掛けている。時間帯に応じて職員配置を決め、安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品については一人ひとりの状態に応じて細心の注意を払い、提供している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント対策委員会を設置し、事故防止マニュアルを作成し職員全員が周知するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、定期的な訓練や確認ができていない。	○	定期的に看護師指導のもと訓練を行い職員全体のレベルアップが必要である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回の防火訓練はできている。	○	災害については今後の課題となるため、地域の取り組みを聞いていく必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故発生時にはただちに家族に連絡し、状況報告をして対応に当たり、リスクマネジメント対策委員会で改善策を検討している。また、一人ひとりの考えられるリスクを検討して、職員全員が把握できるようファイルに綴り確認できるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサイン測定や体調の状態を観察して、異常があれば記録に残し情報を共有できるようにしている。定期受診時には主治医にその旨を伝えアドバイスをいただいたり、電話で指示を受け早期治療に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理して一人ひとりに手渡している。個々の服薬一覧表を作成しており、職員は副作用など認識できるように確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便確認を記録して経過観察し、食事も工夫して野菜、乳製品を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいや歯磨きの声掛け、働きかけを行っている。また、協力歯科医の助言をいただき、口腔内の清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養バランスや水分量が確保できるよう職員全員で支援している。食事量の少ない方は補食や体重測定も行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルの定期的な確認見直しを行い、全職員が周知徹底し実行できるよう取り組んでいる。手洗いやうがいなども習慣となっており、外から帰って来ると自らされる方もおられる。室内の手摺りや床も毎食後1日3回の拭き掃除が習慣になっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	月初めに感染予防対策チェック表を確認している。毎日塩素系消毒剤で消毒を行い、食器類は乾燥にかけて衛生管理に努めている。食材も毎日買い出しに行くことで新鮮で安全な食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭には季節の花や野菜、洗濯物を干している。事業所内の廊下には地域の方の作品を飾ったり、手作りの作品を玄関に飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、音楽を流したりと居心地良く過ごせる共有の空間づくりを心掛けている。一人ひとりの居室にも入居者の目線に合ったネームプレートを担当職員が手作りしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビ、ソファ、テーブルを置き自由に過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品を置いたり、写真や趣味で作った作品を飾り落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時の換気やこまめな温度調節を心掛けている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	床には段差をなくし廊下や玄関には手摺りを取り付けている。夜間は足元灯を設置しているので、安心できる適度な明るさが配慮できている。	○	一人ひとりの機能に合わせた工夫が必要だが、洗面や浴室などは自立した生活を送れるようになっていない。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗が生じた場合は、本人にとって何が混乱の原因なのか職員間で情報を共有し、話し合いながら解決できる支援を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期にはガーデンテーブルを配置して、ティータイムを中庭で取ったり、日光浴をしたりと楽しみの場所になっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちグループホームとよなかは、緑の田園と住民の家に囲まれ、大型スーパー・美容院・高校・幼稚園が隣接しているため、買い出しは日々田園のなか季節感を味わいながらドライブし利用者に新鮮な食材を選んでいただいている。利用者の「できる力」を活かし、食事であれば切り込みする人、盛りつけする人、配膳する人に分かれ協力しつくり上げることによってお互いに役割感を持って取り組んでいただけるようサポートしている。また、食事以外では毎食後の清掃でも役割を持ち取り組んでいただいている。地域交流に力を入れており、地域のボランティアさんを始め近隣住民さんを招待した「一日レストラン」や「もちつき」を行っており評価をいただいている。家族と連携を取るために毎月1回の家族会を行っており、それ以外でも月初めには前月の状態を記録した状況報告シートを家族へ送ったり、月2回の状況報告日を設けこまめに連絡する事で職員と家族で共通認識を持ち利用者の対応にあたっている。